



MDPIをめぐる議論をどう理解するか ——オープンアクセス出版・査読の実態

2026年7月2日

山本 泉

(MDPI Japan Office Manager)

本講演で扱う問い

- なぜMDPIは強い賛否を呼ぶのか
- 「査読が早い」とは具体的にどういうことか
- 特集号（Special Issue）はどのように管理されているのか
- APCは何に使われているのか
- 図書館・研究支援部門の皆様から見るMDPI

本講演は、「良い／悪い」の二項対立を煽るものではなく、MDPIの実際の編集・査読・出版プロセスを紹介することを目的としています。



基本情報

第1章

MDPI (Multidisciplinary Digital Publishing Institute) の基本情報

- オープンアクセス (OA) 専門の学術出版社
- 出版しているのは英語論文誌・書籍
- 研究者が研究者のために設立
- 創設者：Dr. Shu-Kun Lin
1992年スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (ETH-Zürich) にて博士号取得



- 基本情報
本社：スイス・バーゼル市
13カ国に24オフィス
従業員数：8,000+名、約7割が編集者
国際学術団体に参加し、オープンサイエンスを推進



MDPIの歴史



1995年	<i>Molecules</i> 誌創刊
1996年	企業としてMDPI設立
2006年	オープンアクセス正式表明
2008年頃～	オープンアクセス出版社として拡大開始
2010年代	論文投稿システム導入、Web of Science収載
2020年代	大規模出版社へと成長
2026年	創立30周年



<https://www.mdpi.com/30-year-anniversary/milestones>

MDPIはどのように成長したのか

後発出版社として重視した点：

- ・ 出版工程の標準化
- ・ ワークフローの可視化
- ・ 数値管理
- ・ スピード
- ・ ITシステム活用
- ・ 内製（外注なし、トレーニングを受けた社内編集者のみ）

結果として、工程の可視化や属人化の排除おこない、出版の効率化を進めてまいりました



MDPIと相性が良い研究分野・研究スタイル

強みを持つ分野

- ・ 生命科学
- ・ 医学・公衆衛生
- ・ 化学・材料
- ・ 食品・栄養
- ・ 環境科学
- ・ 工学

その背景

- ・ 国際共同研究が多い
- ・ オープンアクセス要求が強い分野
- ・ 論文数・更新速度が速い
- ・ 分野横断研究が多い

ただし、

- ・ 分野ごとの文化差
- ・ ジャーナル評価の違い
- ・ OAへの受け止め方

には大きな差があるため、分野・ジャーナルごとの見極めが必要なのが現状です

編集体制

第2章

MDPIの基本思想

- ・ 可能な限り例外処理を減らす
- ・ 通常フローを高速化・ルーティン化する
- ・ 編集工程をデータで管理する
- ・ ただし、最終判断は人間が行う

迅速性は「査読を省略すること」ではなく、
「周辺工程を効率化すること」で実現しています



どこを速くし、どこを速くしていないのか

高速化している工程（社内）

- ・ 投稿受付
- ・ 査読依頼
- ・ リマインド
- ・ 校正
- ・ 制作

高速化していない工程

- ・ 査読そのもの
- ・ Academic Editorによる判断

査読のスピードが速いのは、プロセスが確立されているからです

MDPIは科学的な妥当性だけをチェックしているのか

一部のOAジャーナルでは、「科学的妥当性（Scientific Soundness）のみ」を採否基準としています。

一方、MDPIでは査読者に以下の観点から評価を依頼しています。

- Novelty
- Scope
- Significance
- Quality
- Scientific Soundness
- Interest to Readers
- Overall Merit
- English Level

7.5. Rating Manuscripts

During the manuscript evaluation, please rate the following aspects:

- *Novelty*: Is the research question original and well defined? Do the results advance the current knowledge?
- *Scope*: Does the manuscript fit the journal's scope*?
- *Significance*: Are the results interpreted appropriately? Are they significant? Are all conclusions justified and supported by the results? Are hypotheses carefully identified?
- *Quality*: Is the article written in an appropriate way? Are the data and analyses presented effectively? Are the highest standards used for the presentation of the results?
- *Scientific Soundness*: Is the study correctly designed and technically sound? Are the analyses performed according to the highest technical standards? Are the data robust enough to draw conclusions? Are the methods, tools, software, and reagents described with sufficient details to allow other researchers to reproduce the results? Are the raw data available and correct (where applicable)?
- *Interest to Readers*: Will the conclusions engage the journal's readers? Will the paper attract a wide readership or be of interest only to a limited number of people? (Please refer to the aims and scope of the journal.)
- *Overall Merit*: Is there an overall benefit to publishing this research? Does the manuscript advance the current knowledge? Do the authors address a significant long-standing question with innovative experiments? Do the authors present a negative result for a valid scientific hypothesis?

<https://www.mdpi.com/reviewers>



※最終的な採否判断はAcademic Editorが行います。

MDPIの編集体制

- 1論文に1人の社内編集者が担当としてつく
- 社内編集者とAcademic Editorの役割を分離
- Academic Editorが学術判断を担当
- 社内編集者は進行管理・連絡・制作調整を担当

※最新の編集体制については[Peer Reviewed Articles : The MDPI Editorial Process](#)をご参照ください。

大量投稿処理を支えるのは、分業化された編集体制です



なぜ迅速な査読が可能なのか

- 編集工程を標準化
- ダッシュボードによる進捗管理
- 大量の編集スタッフ配置
- 時差を活用したグローバル運営
- 制作工程の内製化（社内編集者）

「少人数で職人的に回す」モデルではなく、
「大規模運営モデル」を導入しているからです

APC (論文掲載料)

第3章

APCは何に使われているのか

APCでカバーされる主な項目：

- 編集管理
- 査読運営
- 制作
- システム開発
- XML / PDF / Web公開
- 長期保存
- 研究公正性対応
- インフラ維持

MDPIは購読料ではなく、APCで出版活動全体を運用するモデルを採用しています



なぜAPCに議論が起こるのか

研究者側の疑問

- なぜ無料ではないのか
- APCは高すぎないか
- 大量出版で利益を出しているのではないか

一方でOA出版では、

- 購読料ではなくAPCで運営する
- 論文公開後は誰でも無料アクセス可能
- 出版コストを「読む側」ではなく「出版側」が負担する

従来型出版：
図書館が購読料を負担

OA出版：
研究費・著者・機関がAPCを負担

「読者にとっての無料公開」と「著者にとっての出版コスト負担」の間で認識のギャップや議論が生じやすくなっています

なぜMDPIはIOAPを拡大しているのか

IOAP：機関オープンアクセスプログラム（大学・研究機関単位のAPC割引プログラム）

IOAPの目的

- ・ 研究者個人のAPC負担軽減
- ・ 大学全体でOA出版を支援
- ・ 契約を通じて研究成果のオープンアクセス化を促進

査読体制との関係

- ・ 査読バウチャー（査読者への割引クーポン）とは独立した仕組み
- ・ Editorial Board・査読者ネットワークを継続的に拡充
- ・ Research Integrity Teamなど品質維持への投資も継続

IOAPの推進が査読体制に影響することはありません



研究公正性

第4章

研究公正性への取り組み

MDPI Research Integrity Team

- 12名以上の専任Research Integrity Specialist
- スイス、セルビア、英国、ルーマニアに配置
- Ethics Committeeによる支援
- ケース管理システム運用

Ethics Cases

- 2024年で1,444件
- 検出体制が存在
- 専任部署が対応
- 訂正・撤回を含めた運用

全世界で研究不正ゼロは現実問題として不可能
どれだけ「ゼロに近づけるか」「検出・対応できるか」が重要



※最新情報は[MDPI | Research and Publication Ethics](https://www.mdpi.com/journal/ethics)をご参照ください

Special Issue (特集号)

第5章

Special Issueとは何か（MDPIの場合）

Special Issues (SI)

特定ジャーナルの中で特定テーマを扱う論文コレクション

Topical Collection (TC)

特定ジャーナルの中で長期運営を行う論文コレクション

Topics

複数ジャーナルを横断するテーマの論文コレクション

すべて通常号と同じ査読プロセスを経ています
特定コレクションに属しながら、通常号の論文として掲載されます



Special Issueに対する懸念

よくある疑問

- Guest Editorだけで運営されるのか
- 査読が甘くないか
- 論文数の拡大が優先されないか

MDPI固有ではなく、近年のOA出版全体で議論されている論点

→ **現在では、Guest Editorの管理・監督体制そのものが重要視されています**

※最新情報については、[MDPI | Special Issues Guidelines](#)をご確認ください



論文の長期的なアクセス保証

第6章

論文の長期保存

オープンアクセス（OA）は、「誰でもアクセスできる」ことを意味していますが、「将来にわたってアクセスできる」ことは別問題です。

そのため学術出版では、

- ・ 長期保存
- ・ 分散アーカイブ
- ・ 第三者機関による保管

が重要となってきますが、MDPIジャーナル掲載論文は、

- ・ CLOCKSS
- ・ スイス国立図書館

でアーカイブされているため、万が一出版社が存在しなくなった場合でも、論文アクセス継続を前提とした保存体制を有しています。



まとめ

MDPIをめぐる議論の背景には、

- OA出版の急拡大
- 大量投稿時代
- Special Issue運営
- APCモデル

など、学術出版全体の構造変化があります。

単純に「良い／悪い」と判断することではなく、実際の運営・査読・編集体制を理解した上で、研究分野や目的に応じて適切に判断することが重要です。

Thank you!

- 10月の図書館総合展2026でブース出展&講演やります！
- MDPI Japan ブログ更新中！

<https://japan.mdpi.com/news-and-events>

MDPI 日本支社

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町一丁目5番12号
CIRCLES日本橋馬喰町2階

電話番号：(03) 5829-3835

ウェブサイト：<https://japan.mdpi.com/>

メールアドレス：info-tokyo@mdpi.com



[@MDPIOpenAccess](https://twitter.com/MDPIOpenAccess)



facebook.com/MDPIOpenAccessPublishing



linkedin.com/company/mdpi



[MDPI AG – YouTube](https://www.youtube.com/MDPIAG)



instagram.com/mdpiopenaccess

